

評価年月日 平成26年8月19日

研究所名 畜産センター

課題名 デュロック種の生産性向上のための肢蹄評価確立試験（平成22～25年度）

【課題の概要】

デュロック種系統造成の基礎豚，第一世代豚，第二世代豚を用い，スウェーデンのスコアモニタリングモデルに準じて肢蹄評価した結果，従来の方式（各部位段階合計）得点ではランク適合率が悪く正しく評価できなかった。各部位の形状に重み付け（減点数・減点倍率）することにより，種豚審査基準に準じて行ったランク毎の得点はAランク：85点，Bランク：73点，Cランク：61点，Dランク：44点であり，80点以上をA，65～79.9点をB，50～64.9点をC，50点未満をDとしたとき，ランクの適合率は70%以上となり，デュロック種の肢蹄評価に利用できると推察される。

【評価結果】（評価委員数 4名）

○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究目標の達成度 ・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及	合計点
4.3	4.3	4.3	12.9

○総合評価 4：やや良好

（1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好）

【委員の意見・助言と対応策】

評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度 ・副次的効果	・複数の形態的な違いに基づき評価できる可能性を見いだしたが，評価の客観性について検討が必要。 ・デュロック種の種豚選抜に利用可能なスコアシートを用いた肢蹄評価法を構築したことは評価できる。 ・評価シートがあっても，個人差が出てくるのは否めず，熟練度が問われる。	
成果の意義・波及効果	・肢蹄の評価法を統一したことにより，同一の評価基準に基づく普遍的な系統造成が可能になった。選抜に利用できれば，生産性向上に寄与する可能性は高い。 ・この選抜技術が習得できれば，優秀な豚を選抜でき大いに期待できる。 ・農家が簡易に評価出来るような評価法が確立されれば，貢献性は高い。	
成果の普及性	・育種への活用ができれば非常に有益である。 ・肢蹄評価に用いる各指標の重み付けの客観性が充分とは言えない。 ・肢蹄評価得点と長命性の関係などについて，客観的な評価の例数を増やし，補正する必要がある。 ・見た目でも評価できる点は，簡単でコストもかからず期待できる。	
総合評価	意見・助言	対応策
	・考え方は素晴らしいが，今回の試験ではデータ解析法も含め，主観による所が多々ある。普及するには，多くの人による評価の積み重ねが必要である。 ・客観的な肢蹄選抜指標のなかったデュロック種で，得点による肢蹄評価システムを構築した点は評価できる。各項目の得点の重み付けは担当研究者の経験による部分が大きいので，今後その裏付けデータを蓄積し，システムをより良いものに改善することを期待する。 ・より簡単な評価スコアシートを検討し，正確に評価できる人の育成が重要である。	・今後は，より客観性を求めるため，当所系統造成の第三世代～完了世代について，担当以外の職員による評価を積み重ね，簡易評価スコアシートとともに，裏付けデータを蓄積する。また，一般農家による「使い勝手」等の意見も併せて参考とし，改善・普及に努める。